

まえがき

青森県の経済情勢は、日本銀行青森支店の発表によると「県内の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から、サービス消費を中心に、引き続き厳しい状態にあるが、基調としては持ち直している。また、最終需要動向をみると、個人消費は、持ち直しの動きが一服しており、乗用車販売は、持ち直しの動きが鈍化している」としております。

令和2年を振り返りますと、世界各国が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大混乱を生じた一年でありました。4月に入り、「緊急事態宣言」の発令という史上初めての事態に直面し、人々の生活様式のみならず、あらゆる業種の働き方を変え、感染状況が収束するまでは、今しばらく従来とは違った新しい取り組みも取り入れつつ、工夫しながら業務運営を進めていくことと思われまます。

このような中、令和2年度の検査登録申請等に関する状況につきまして、登録車と軽自動車を合わせた全国の新車販売台数は、前年度比7.6%減の4,656,632台となり、2年連続で減少しました。

一方、青森県内の状況をみますと、令和3年3月、当支部は、「災害時における電動車両等の貸与に関する協定」を青森県と結び、近年、複雑多様化、大規模化する災害発生時に、防災拠点や避難場所への電気自動車・プラグインハイブリッド車等の無償貸与、非常用電源確保等の要請についても、迅速に機能する体制を整えているとし、申し入れを行いました。

令和2年度、県内の新車台数状況は、登録車が前年度比10.7%減の28,420台、軽自動車は、前年度比3.3%減の22,406台と、共に3年連続で前年度実績を下回りました。この結果、二輪を除く新車総台数は、前年度比7.6%減の50,826台となり、3年連続で前年度実績を下回りました。

また、中古車台数状況は、登録車が前年度比0.2%減の43,380台、軽自動車は、前年度比9.8%減の45,983台と2年連続で前年度実績を下回りました。中古車総台数では、前年度比5.4%減の89,363台となり、3年連続で前年度実績を下回りました。

さらに、自動車保有車両数は、令和3年3月末現在1,003,353台で前年同期比165台の増加、前年とほぼ同率で、3月末で100万台を超えたのは8年連続となりました。一世帯当たりの保有車両数は1.68台と前年を下回っております。また、ハイブリッド車の保有車両数は78,820台、前年同期比で6,281台増加しており、登録車両数(小型二輪車を除く)520,124台に対し15.15%の占有率になっております。

この資料は、東北運輸局青森運輸支局のご協力を得て、当支部及び当会議所のホームページに掲載しております。この資料が、関係官庁及び関連業界などの各専門分野で分析・研究され車社会を考える一助になれば幸甚に存じます。

令和3年10月

一般社団法人 日本自動車販売協会連合会青森県支部
一般社団法人 青森県自動車会議所